

第13期

「京都教師塾」



December

平成30年12月15日

学びの広場

京都市教育委員会 教員養成支援室

第3回教育実践特別公開講座 講師：生徒指導課 野村 一眞 副主任指導主事 「児童虐待の現状とSSW」



今回は、生徒指導課の野村一眞先生にお越しいただきました。講義の中では、身体的虐待・ネグレクト（保護の怠慢）・心理的虐待・性的虐待のそれぞれのケースをもとに、担任・学校としてどうするかをまず自分で考え、その後隣どうしで話し合いました。そして、担任として大事なことは「寄り添い」「情報共有」「関係機関との連携」だと教えていただきました。また、子どもの気にかかる様子に気付いたとき、その事実だけではなく、背景に虐待の疑いがあるかもしれないという視点をもつことが大事だとおっしゃっていました。教師・SC・SSWの対応についても比較しながら教えてくださったので、違いがよく分かったことと思います。

生徒指導とは、問題行動への対応だけにとどまらず、自己指導力の育成をめざすことです。そのためには、あらゆる教育活動において、すべての教職員で生徒指導を行うこと、そして「生徒指導の3つの機能」で関わるのだということを常に忘れないようにしたいものです。

第4回京都市教育学講座 講師：学校指導課 中澤 明美 首席指導主事 「生きる力を育むためのキャリア教育」



午後は、学校指導課の中澤首席にご講義いただきました。キャリア教育は職業教育ではないこと、そして特別な教科ではないということを改めて認識できたことと思います。

京都市ではキャリア教育を「生き方探究教育」と呼んでいます。学校現場での取組については、総合的な学習の時間を中心にお話いただきました。また、京都市ならではの生き方探究館での取組についても紹介してくださいました。

分散会では、「キャリア教育の視点とは？」というテーマで話し合いました。「全ての教育活動に通ずる」と言っても、具体的にどのような活動や取組を通して生きる力をつけることができるのか、まだイメージがしにくかったかもしれません。学校実地研修等で現場を見ていく中で、今回学んだキャリア教育の視点を頭の片隅に置いておくと、新たな見方・考え方ができるのではないのでしょうか。以下は、グループアドバイザーの先生方がまとめて話された内容の一部です。学びの一つとしてください。

○一斉に同じことを与えてうまくいくのかと考えることからがスタートです。一人一人の子どもがゴールに向かって頑張れる力をつけるためにどうしていくか…大変なことです子どもが好きならきっとできます。

○この分散会こそが、まさしくキャリア教育の視点での活動です。KJ法を使ったグループ討議もキャリア教育につながります。体験を学びにつなげるために、教師も共に感動することを大切にしてください。

今回の分散会は、2組
合同で行いました。

仲間のレポートに学ぶ



1組+6組



2組+7組

第4回京都市教育学講座【講義】 「生きる力を育むためのキャリア教育」

1 全体会

講義を通して学んだことは3つあります。1つ目は、キャリア教育とは生き方を探究する教育であるということです。私は今まで、キャリア教育とは職業体験のことであると捉えていました。しかし、「働くこと」だけがキャリア教育のゴールではなく、学びが生き方につながるのだということを学ぶことができました。2つ目は、チーム学校で取り組むことです。教師は専門職ですが、全ての分野におけるプロではないので、わからない時には聞き、共に考え、対応していくことが大切だということがわかりました。3つ目は、子どもたちに志をもたせることです。夢を夢で終わらせず、一歩踏み出させることが大切だと学びました。そのために教師は、子どもたちと人をつなげたり、悩ます材料を与えたりするなど、しかけを作っていくことが必要だと思いました。また、小・中・高が接続し、続けて学び続けることも必要だと感じました。

2 分散会

分散会では、キャリア教育の視点について考えました。キャリア教育とは、まわりの人と関わりながら、将来につながる興味や関心を抱き、それを目標にして課題を見つけ、探究し続けることではないかと、グループで意見がまとまりました。また、教師が子どもたちのゴールを決めるのではなく、子どもの可能性を広げてあげることが「志」につながるのではないかと思います。キャリア教育を一つの枠組みとして捉えるのではなく、教育活動全体で行っていくことが重要であり、その中でも私はやはり教科指導においてキャリア教育を進めていきたいと考えました。教科を教える中で少し豆知識を教え、疑問が生まれるような指導ができれば、子どもたちは「もっと知りたい」「これを知るためにはどうしたらいいのだろう」と考えることができ、それが探究につながるのではないかと思います。

3 まとめ

子どもたちが生き方を探究するためのきっかけは教師にあると思うので、教師自身も様々な視点から物事を見られるような柔軟な思考が大切であると思いました。そのために、常に学び続け、たくさんの人と出会い関わっていききたいと思いました。人との出会いから学ぶことは多いと思うので、そのチャンスを子どもたちにも作っていききたいと思います。

「キャリア教育」について、しっかり整理して考えをまとめているのには感心です。学校におけるキャリア教育は特別なことをすることではなく、かつてから現場で重んじてきている「子どもの生きる力の育成」であります。目の前の子どもたちに、「将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を重視するための力」を育成することが求められています。指導者である教員としては、子どものキャリアを意識して実践にあたるのが大事なことなのですね。



3組+8組



4組+9組



5組+10組